

事業名

経験ゼロから本気で半農半X 「きゅうりタウン構想」による地域農業振興

事業の概要



きゅうり塾2期生の勝又さんの
経営するハウス内の様子

篤農家のもつ匠の技術×次世代園芸ハウス養液栽培
JAかいふが中心となって掲げた「きゅうりタウン構想」の実現に向け、地域の持つ「匠の技」ともいえる栽培技術、オランダ型複合環境技術による次世代園芸栽培を、「オープンなノウハウ」として継承する研修・実習「海部きゅうり塾」を開講し、新規移住就農者を育成している。研修会場として「次世代園芸実験ハウス」を整備し、地域一体で、経験ゼロからの就農でも安定して収入を得られるようになるため、多様な支援体制を用意している。

「全部オープンでやっていこう！」

徳島県海部郡はきゅうりの10aあたりの収量が約30tで全国2位という高い栽培技術を持つ産地である。しかしながら、土づくりや暑いハウス内で一年中続々収穫作業等で、近年は、新たに栽培を始める若者は少ない。生産農家の高齢化と担い手不足が深刻化し、生産農家数は最盛期の4分の1に、また、海部郡の地域全体で人口流出が問題となっている。これらの解決に向けて、平成27年、JAかいふと徳島県、海部郡3町（牟岐町、美波町、海陽町）は、移住就農を拡大し、促成きゅうり的一大産地をつくる「きゅうりタウン構想」を立ち上げた。これまで温暖な気候と冬場の日照量の多い地の利、徳島大学・明治大学農学部などの産官学連携による高度な施設・栽培技術によって、「収入を得られる農業」を次世代に引き継いでいく構想実現を目指している。

背景・経緯



農業だけ推しても人は来ない「半X」で地域の魅力をアピール

きつい、汚い、つらいといったイメージの農業だけを推しても若者は集まらない。そこで、海部の海や自然を生かし、サーフィンなどレジャーが楽しめて、ある程度一定の収入を得られるという「半農半X」のライフスタイルを発信。SNSや魅力的なCMなどを通じてアピールに成功している。

いくつかの失敗をしても耐えられる手厚い移住就農者支援体制

きゅうりタウン構想前はきゅうり農家は30軒。10年で倍増を目指すため、には1年ごとに3人増やす必要がある。きゅうり塾の一期生が9名、二期生が3名、三期生が2名という具合に、目標を上回るペースで集まっている。元SEや元塗装業など、畠違いの業界出身者も多い。定植や葉をかき、収穫といった作業の遅れを地域でフォローできるように情報を共有。技術が確立してから普及するといった従来の営農支援の考え方から、技術開発しながらお互いに納得して行う新しい営農指導も推進。

「きゅうりタウン」構想のPR拠点「きゅうりタウン体験・交流ハウス」

2018年10月、道の駅日和佐（美波町奥河内）にオープン。キュウリを使った特産品の開発のはか、多目的に活用。木造平屋建て約90m²、研修室、加工室などがある。

事業のポイント



実施体制・収益構造等

「海部きゅうり塾」研修・募集概要

場所 徳島県海部郡（主に海陽町）

内容 就農を前提としたきゅうり栽培技術を1年間かけて取得。

座学 農業基礎知識 & 実践研修（環境制御技術・栽培方法）

費用 無料（生活費等は別途必要）

※就農時50歳未満の方は農業次世代人材投資

資金（準備型：150万円/年、最長2年）を利用可能。

※住宅費一部助成あり。

対象 塾終了後、海部地域で就農する意欲のある方。

※JAかいふのレンタルハウス（15a）を利用可能

募集 3組程度（原則夫婦）※一人の方はご相談ください。

塾終了後は養液栽培での就農を想定。研修中および就農後は、ベテラン農家、JAかいふ営農指導員、県農業支援センター等が技術指導を行います。JAかいふ・海部郡3町（牟岐町、美波町、海陽町）・県が連携して「きゅうりでの移住就農」を推進しています。

楽しくやれないと、仕事に張り合いがないし、つづかないでしょ？

連携する事業等



きゅうり塾2期生の勝又さんの
経営するハウスの定植の様子

心強い地域ぐるみの支援体制（きゅうり塾2期生勝又氏）

病気や生育不良、風速50mを超える異常気象など、想像を超えることが色々と起こる。そうした時に近隣篤農家にすぐに相談できる環境、補助金を活用した対候性ハウス整備、レンタルハウスによる地代負担低減、メンテナンス体制。いざというときの収入保険など、安心して農業に取り組む支援メニューが充実している。半農半Xはありがたいけれど、いずれは一年中収穫できるように研究中のこと。

全国きゅうり養液栽培サミットの開催

全国からきゅうりの養液栽培に取組む生産者、技術者に加え企業が一同に集い、「きゅうり養液栽培」技術確立に向けた取組を加速化させるとともに、次世代に向けた園芸産地の展開をめざす。

将来性・発展的展開



移住就農者支援メニューのさらなる充実

自立経営に導くための施設を整備し、次世代園芸技術による儲かる魅力ある促成きゅうり経営を確立したい。圃場増のほか、30～40t/10aを安定的に実現するための施肥や品種改良などの技術向上より、さらなる収量増加を図る。



かいふのきゅうり、〇〇のきゅうり

高い栽培技術をもつ産地としてのブランディングを進め、「きゅうりタウン」全体として、また栽培農家個別のブランディングとしても支援を行っていくことで、地域全体としての販売単価の上昇を図る。

体験農業や職業体験で実際の農業を伝えたい

きゅうり塾OBの経営する体験ハウスでは、農業や、職業体験の場として中高生を受け入れている。実際は様々な苦労もあり「根性がないと無理」な就農だが、きゅうりの存在が地域への愛着に繋がってくれればと考えている。クリーンな養液栽培ハウスでの作業を実際に体験することで、農業がやりたいという子供も現れている。

